

都立特別支援学校における新たな地域支援の取組

知的障害特別支援学校と知的障害特別支援学級との連携

○池尻加奈子

市川裕二

(東京都立清瀬特別支援学校)

KEY WORDS: 地域支援、センター的機能、知的障害

(目的)

現在、特別支援学校は、特別支援教育のセンター的機能を発揮し、地域の特別支援教育の推進を図っている。このため、これまで本校は、通学区域である3市の教育委員会と連携し、支援エリアである三市の教育委員会と近隣の校種の異なる特別支援学校とともに、年間2回の連絡協議会の実施、年に1回、三市と共催した研修会の開催を行ってきた。また、3市の小・中学校からの要請に応じて、年間50回程度の巡回相談を行ってきた。近年、特別支援学校への支援要請が増加しており、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等による巡回相談の実施回数は増加傾向にある。しかしながら、研修会の実施や巡回相談を通じた支援は、そのほとんどが個々の教員に対するものや個別の事例に対応するものであったり、単発の支援で継続性のないものであったりと、地域の特別支援教育を推進するとした組織的な支援にはつながりにくい部分もあった。

こうした中、近年の文部科学省の新学習指導要領の改訂に動きの中で、今後検討すべき課題等も提案されている。例えば、中央教育審議会特別支援教育部会における議論の取りまとめでは、「各発達段階を通じて子供たちにとって最適な学びの機会を確保していく観点から、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の間で、教育課程の円滑な接続が確保されるようにすることが必要である。」とある。また、新学習指導要領の改訂の趣旨として「学びの連続性を重視した対応」が提案されている。このため、今後特別支援学校のおえるセンター的機能の発揮においても、小中学校とのつながりや連続性を意識した支援が重要となる。このため、本校では、地域の特別支援教育の推進のため、知的障害特別支援学校と、地域の小・中学校の知的障害特別支援学級と連携の構築を図っている

本研究では、この連携における地域の小・中学校の特別支援学級の教員の意識調査をすること、今後の特別支援学校のセンター的機能のあり方について検討する。

(方法)

<本校の地域支援モデル>

本校では、今年度より地域支援のモデルとして、支援の輪(図1)をイメージして3点の事業に取り組んでいる。連携の具体的な内容は以下の通りである

1. 特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの派遣(知的障害特別支援学級への年間2回以上)教材の提供、年間指導計画の交換
2. 4機関合同研修会の開催、校内研修会への招待、外部専門家と連携し、授業改善した成果についての情報提供
3. 三市特別支援教育通信の発行

①本校の教育②アセスメント③外部専門員④所有する教材(貸出受付)⑤個別指導計画⑥年間指導計画⑦校内研修会の案内を中心とする特別支援に携わる教員にむけた内容を通信として、二か月に一度のペースで発行する。双方向的なやりとりを行うために、通信を読んだ後、テーマに沿って返信をすることを依頼する。返信された内容を記事として次の通信に掲載し、本校と縦のつながりだけでなく、

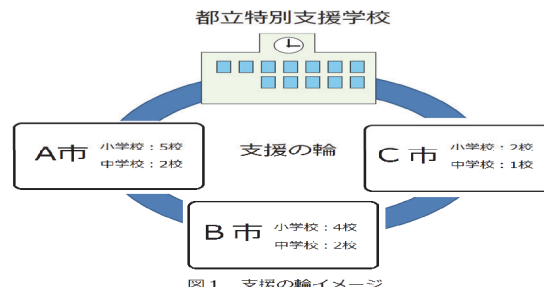


図1 支援の輪イメージ

三市の特別支援に携わる教員の横のつながりを作り出せるようにした。

<特別支援学級の意識調査>

こうした本校の連携を踏まえて、地域の小中学校の特別支援学級の教員に対してヒアリングによる意識調査を行った。調査内容は次の通りである。

- ① 指導上の課題及び重点をおいている指導内容
- ② 特別支援学校に望むこと

(結果)

<本校の取り組みについて>

外部専門家を講師に招いた校内研修会は、様々なジャンルの研修を企画したこともあり、多くの三市の学校の教員が来校し、ともに専門性を高めるための学び合いができた。また、気軽に本校に足を運ぶ環境作りができた。

通信のやりとりで、本校の情報を発信するだけでなく、他市の特別支援学級の様子についても情報共有することができた。

4 機関合同研修会では、講義だけでなく交流会を設定した。担当している校種や学年でグループを作り、本校教員と、三市の教員とでグループワークを行った。通信ではできなかった顔が見えるつながりを作ることができた。

<意識調査について>

①小中学校の特別支援学級教員が考える学級における課題や重点を置いている指導内容は、特別支援学校のものとつながるものもあるが、一方大きく異なるものもあった。特に中学校においては、教科学習の扱いに大きな差があった。②今まで、特別支援学級と特別支援学校のつながりを特に意識することはなかったが、今後は連携を期待する声や研修会に期待する声が上がった。

(考察)

地域の特別支援教育体制の充実を図っていくためには、今後も特別支援学校のセンター的機能が果たす役割は重要である。すべての学校で特別支援教育が推進される中で、知的障害特別支援学校の果たすべき役割について検討をする必要がある。今後の特別支援教育の在り方や進むべき道、小中学校との連携の充実、学びの連続性を考えたとき、担任レベルにおけるネットワークの構築を含む、知的障害特別支援学級と知的障害特別支援学校の一層の連携の充実が望まれる。

(参考) 平成28年7月：文部科学省中央教育審議会特別支援教育部会における議論の取りまとめ

(IKEJIRI Kanako, ICHIKAWA Yuji)